

子ども読書支援センターニュース No.148

2016. 9. 30

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行

TEL083-924-2111 FAX083-932-2817

<http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

☆メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★幼児のためのおはなし会

○日時：平成28年10月4日（火）11：00～11：20

○会場：山口県立山口図書館

○対象：幼児

【9月のおはなし会で使った本】

『もみもみおいしゃさん』 とよたかずひこ/脚本・絵 童心社 2004

『のっぺいこう』 木内達朗/さく 福音館書店 2015

『おつきさまのかぞえうた』 新井洋行/作 えほんの杜 2015

『きょうりゅうきょうりゅう』 バイロン・バートン/さく・え なかがわちひろ/やく 徳間書店 2000

『にんじんとごぼうとだいこん』 和歌山静子/絵 鈴木出版 2007

◎申込み、連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2111 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）◎申込み、連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2111 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【新刊紹介】 価格は消費税抜き

<絵本-乳幼児から>

『おやすみぞうちゃん』 三浦太郎/作 講談社 2016.8 ¥800

ぞうちゃんはぞうの赤ちゃん。だから、のしのし歩くよ。あら！転んで泣いちゃったと思ったら、けろっとして、つみきを始めた。つみきが、がっしゃんとくずれてしまったら、今度は笑ったよ…。泣いたり笑ったり、いつも大忙し。ぞうの赤ちゃんの一日を、わかりやすい絵でユーモアたっぷりに描いた赤ちゃん絵本。シリーズ第3弾。

『とりがいのよ』 風木一人/さく たかしまてつを/え KADOKAWA 2016.9 ¥900

白いとりがいっぱい並んでいるよ。ページをめくると、たくさんの白いとりの中に、赤いとりや青いとりが一羽ずついるよ。たくさんの黄色いとりの中には、大きなとりや小さなとりもいるよ。ながいとり、まあるいとりなど、いろいろな色や形のとりたちが、シンプルな絵ですっきりと表現されている。かず・いろ・大きさに初めて触れる赤ちゃんのための絵本。

<絵本-3, 4歳から>

『ゆうびんくまさんのおおきなれっしゃ』 海一慶子/作 小学館 2016.6 ¥1400

友だちのいないちびくまくん。手紙や小包を配達している父さんのゆうびんくまさんから、「おみやげをさがしてくるから、いいこでまわってね」と言われ、お留守番。父さんは途中、おおきなれっしゃが捨てられているのを見つけ、自転車につないだ。いろいろな動物達に会い、次々に乗せてあげると、それは最高のおみやげとなり…。柔らかな色彩が印象的な絵本。

『パパとママのつかいかず』 ビーター・ベントリー/ぶん サラ・オギルヴィー/え 福本友美子/やく BL 出版 2016.9 ¥1500

パパとママって、ああしろ、こうしろ、ほんとにうるさいよね。「はをみがきなさい！」とか「ありがとうは？」とか「おまめのこさないで！」とか…。だけどね、そんな2人だって、うまくつかえば、なかなか便利なんだよ！パパはお馬さんだし、ママのスカートは、どろんこの手を拭くタオルにちょうどいい！親子の毎日をユーモアたっぷりに描いたイギリスの絵本。

『ど「どあい」の「ど」をみつけよう！』 いざわかつか/作 こやまともこ/絵 白泉社 2016.7 ¥880

最初は、ジュース度。少しずつジュースを飲む絵には「ちびちび」、いい飲みっぷりの絵には「ごくごく」、喉に流しこむように飲む様子には「がぶがぶ」という言葉が。これは、飲む時の「どあい」が「ど」のくらいかを絵で可視化したもの。「なみだど」では、「じわじわ」「ぼろぼろ」「わんわん」…。さまざまな「度合い」を表す言葉が身につく、新発想の知育絵本。

『ぼくはかわです』 植田真/作 WAVE 出版 2016.6 ¥1300

ぼくはかわです。たぶたぶたぶ。小鳥たちが、歌をうたいにきた。りすやうさぎ達も現れ、近所のしょうちゃんが、おつかいから帰ってきた。やがて日が暮れて、月が遊びこきて…。移ろう光、風に揺れる水面。いつもと同じようで、二度とは繰り返さない今日という時間。イラストレーター植田真が、密やかに賑やかな川の一日を、柔らかな色彩で描いた美しい絵本。

『さわってごらん！よるの星』 クリスティ・マシソン/作 大友剛/訳 ひさかたチャイルド 2016.8 ¥1300

紺色の空が降りてきて、お日さまにさよならをする。夕闇の中を飛ぶホタルに、優しくさわってみて。ページをめくると…ホタルが光った。今度は空をあちこちさわってみよう。それから、そっと息をふきかけてみると…？こすったり、数えたり、呼びかけられ絵本に参加するたび、画面がまるで読者の動きに反応するように展開していく。さわって遊べるアメリカの絵本。

<絵本-5, 6歳から>

『ペイリーはくぶつかんにいく』 ハリー・ブリス/作絵 北川静江/小峯真紀/訳 宮本寿代/監訳 バベルプレス 2016.7 ¥1500

今日は遠足。学校の友達と博物館にやってくる。ご機嫌な犬のペイリー。館内には珍しいものがたくさんあって、見るのに大忙し。恐竜の骨に夢中になりすぎて、展示されていた恐竜模型に登ってしまった！助けてくれた警備のお兄さんと見学することになったものの、今度は迷子になってしまい…。読者と一緒に博物館を探検しているような気分で楽しめる愉快な絵本。

『ママのスマホになりたい』 のぶみ/さく WAVE 出版 2016.8 ¥1400

テレビが始まるとテレビをみて、赤ちゃんが泣いたら赤ちゃんをみて、その後はスマホをみて…。それを繰り返して、全然かんたろうののを見てくれないママ。そんなママに困り果て、ついに怒って、ママに何を聞かれても「わかんねえよ！」と言うことになっちゃう…？シンガポールの小学生の作文「スマホになりたい」を元にした、親や大人がはまっとさせられる絵本。

『なつめやしののおむこさん』 市川里美/作 BL 出版 2016.8 ¥1400

オマーン山で暮らす少年マンスールは、実をつけないメスのなつめやしの木のために、オスの木をもらいに、ロボのハムザを相棒に、山を越え、気難しいおじいさんが持ち主のやしの木の林まで向かうことを決める。ところが途中、手土産のコーヒーポットを

湖に落としてしまい…。アラビアを舞台にした少年の勇気と冒険、そして異国の文化をいきいきと描く。

<絵本—小学校低学年から>

『ひまなこなべ アイヌのむかしばなし』 萱野茂/文 どいみや/絵 あすなろ書房 2016.8 ¥1400

天の国からおろされた位の高い熊の神が、石狩川の上流に住むアイヌの家に招かれ、踊りの上手な若者に会った。若者が神だと気づいた熊の神は、若者の本当の姿を知ろうと、何度も地上におりた。同時に家には幸せが訪れることになり…。アイヌの人達が、あらゆるものに魂が宿り、それらは皆神様だと信じて、尊敬の気持ちを持って接していたことを伝える昔話絵本。

<読み物—小学校低学年から>

『おぼけのコッチわくわくとこやさん』 角野栄子/さく 佐々木洋子/え ポプラ社 2016.8 ¥900

おぼけのコッチは、床屋のちょつきりさんの家に住んでいる小さなおぼけ。お客が少なくなって困っているちょつきりさんのために「わくわくおまかせ」スタイルを提案すると大評判となった。ある日、ドラキュラの孫娘ドララちゃんが来店、素敵なお髪型に満足したが、帰り際にコッチをかばんに詰め込んでさらって行ってしまった。どうなるコッチ…。1979年から続く「ちいさなおぼけシリーズ」35冊目。

<読み物—小学校中学年から>

『ハレとカナ』 ひこ・田中/作 ヨシタケシンスケ/絵 講談社 2016.8 ¥1300

休み時間になると男の子は男の子、女の子は女の子で集まる。なんでだろう。男の子同士、女の子同士だと楽しいから？でも、同じクラスになり、友だちになった小2の男の子ハレと女の子カナは、お互いのことが気になり、目で姿を追い、一緒に話をしたいなと思うようになる。これって、どういうこと？この気持ちはなに？小学2年生のハレとカナに芽生えた小さな小さな恋の物語。

<読み物—小学校高学年から>

『ダニーの学校大革命』 ラッセル・オスファテール/作 ダニエル遠藤みのり/訳 文研出版 2016.8 ¥1400

成績はまあまだけど、いつも先生に反発ばかりして、生活態度はことごとく注意されていたダニーは、ひよんなことから、クラス委員をやることに。ますます先生を疎ましく思うダニーは、先生をやっつける話を書き始め、それを読んだクラスメイトは大盛り上がり。それが、クラスの団結力を深め、文章力をめきめき向上させるという思わぬ成果を上げることになる。淡い恋心も織り込んだ思春期物語。

<読み物—中学生から>

『百年後、ぼくらはここにいないけど』 長江優子/著 講談社 2016.7 ¥1400

存在感のない楽な地理歴史部(チレキ)でなんとなく過ごしてきた健吾が、中学最後の学習発表会で部長として「百年前の渋谷のジオラマ」を作ることに…。再開発で現在の商店街も変わろうとしている中で、町の人たちと交流し、百年前の人々、未来の人々に思いを馳せ、納得のいくジオラマを作り上げようと、ギリギリまで部員たちの奮闘が続く。

<ノンフィクション—小学校中学年から>

『さかなクンの一魚一会まいにち夢中な人生!』 さかなクン/著・イラスト・題字 講談社 2016.7 ¥1300

幼少期から、人とちょっと違って、勉強はちっともしない。好きな魚を思う存分見せてくれる魚屋さんへは、片道1時間かけても通うという子ども時代を送ったさかなクン。母親は、そんな息子のことを温かく見守り、理解し応援し続けてくれた。2010年、絶滅したと思われていたクニマスの子息確認に貢献し、メディアでも大活躍、現在は東京海洋大学名誉教授となった著者の自叙伝。

<ノンフィクション—小学校高学年から>

『転んでも、大丈夫ぼくが義足を作る理由』 臼井二美男/著 ポプラ社 2016.8 ¥1200

「新しい人生を、前向きに踏み出すきっかけづくりがしたい」と、走れる義足作りに挑戦し、義足ランナーの練習会を立ち上げ、パラリンピックに出場する選手のメカニックとしても同行している著者。スポーツの他にも義足を通じて、アートやファッション界とのコラボも実現している。義肢装具士としての様々な仕事や、患者の願いに真摯に向きあい、前向きに挑戦する著者の熱い思いを紹介。

<ノンフィクション—中学生から>

『学校では教えてくれないゆかいな日本語』 今野真二/著 河出書房新社 2016.8 ¥1300

日本語学の専門家が、楽しさや遊びにつながる「詩的言語」について、「音」「文字」「数字」「遊び心」の視点から解説。イラストのイラって何？怪獣の名前にはラがつく？人一倍って一倍？いろは歌や折句などの古来からのことば遊びも含め、「ゆかいさ」をもつ生き生きとした日本語の世界を案内する。絵本作家・丸山誠司のイラストも楽しい。「14歳の世渡り術」シリーズ。

<研究書>

『絵本に魅せられて』 佐藤英和/著 こぐま社 2016.3 ¥1800

絵本の専門出版社こぐま社を設立し、『わたしのワンピース』『11ぴきのねこ』『こぐまちゃんえほん』などのロングセラー絵本を生み出した創業編集者による絵本論。1971年の太田大八、武市八十雄、松居直、古田足日との座談会や2010年の松岡享子との対談、ロングセラー絵本の誕生秘話など、長年の夢を実現した一人の編集者がこどもの本に託す熱い思いを語る。

『わないにわわたし』 せなけいこ/作・絵 文藝春秋 2016.7 ¥1450

1969年「いやだいやだの絵本」4冊シリーズで絵本作家デビューし、貼り絵という独特の技法で多くの絵本を生み出したせなけいこ。「おぼけ」や「めがねうさぎ」といった独特のキャラクターが生まれていきさつ、生い立ちや子育てと作品との関わり、貼り絵の難しさやおもしろさなど、自らの創作について語る。貴重な資料やフルカラーの貼り絵原画も満載の大人が楽しめる絵本。

【県内の動き】

★児童文学わいわい講座

○講師：村中 李衣氏（児童文学作家） ○日時：平成28年10月8日（土）10：00～12：00

○会場：山陽小野田市立中央図書館 2階 第1会議室 ○定員：20名程度

○参加費：無料 ○照会先：山陽小野田市立中央図書館（TEL:0836-83-2870）

★第4回（全6回）絵本で子育て応援講座～絵本で解決！なんでも相談～絵本で子育て応援講座～絵本で解決！なんでも相談～

○講師：村中 李衣氏（児童文学作家） ○日時：平成28年10月8日（土）13：30～15：00

○会場：山陽小野田市立中央図書館 2階 第1会議室 ○定員：30名（要申込み） ○参加費：無料

○照会先：山陽小野田市立中央図書館（TEL:0836-83-2870）

★うちどく（家読）推進事業講演会『読書で育つ「生きる力」～学校や家庭でできること～』

○講師：脇 明子氏（ノートルダム清心女子大学名誉教授）

○日時：平成28年10月9日（日）14：00～16：00 ○会場：長門市立図書館 2階 視聴覚室

○対象：子どもの読書活動に興味をおもちの方 ○定員：100名（要申込み） ○参加費：無料

○照会先：長門市立図書館（TEL:0837-26-5123）

★やまぐち絵本案会2016 松田素子さんに聞く 編集者松田素子さんを囲んで

○講師：松田 素子氏（編集者） ○日時：平成28年10月12日（水）10：00～12：00

○会場：山口県立山口図書館 3階 第2研修室 ○定員：50名（要申込み） ○資料代：300円

○申込先：こどもと本ジョイントネット21・山口（山口：090-3636-2617）（原田：090-8712-3641）